

事業のタネシート

活動地域・団体名：天理市環境連絡協議会

事業名称1：「水と緑のネットワーク」プロジェクト

あらすじ

本事業は、2015年奈良県の支援を受け立ち上げた事業で、里山・水源の森づくり、ホタル舞う川、イチョウ並木（約千本）保全を連携・持続可能的に進めてきた。今後もさらなるステークホルダーを募りバージョンアップしていきたい。

ストーリー

東部・山の辺の道沿いの里山を水源・バイオマスエネルギーの森とし、西部の市街地を布留川で結ぶ。また、布留川沿いのイチョウ並木復活が緑陰をもたらし、ホタルの増加に結びついた。さらに、イチョウの落葉を果樹園などで肥料化し、農産物生産に活用することをモデル的に実践してきた。さらに、日本最古の道「山の辺の道」に隣接する天理大学・親里競技場と里山において「SDGsの森づくり」を構想し、「人材」「健康」「バイオマスの森づくり」を推進する。今後は、さらなるステークホルダーと周辺施設のネットワークを強化し、「山の辺の道ミュージアム・構想」「生き物ブランド農産物」などの事業も検討している。

事業の骨子

現時点で想定される 課題・ボトルネック

①ありたい未来	天理市全体を持続可能で、自然環境と暮らし、経済、教育、防災などの課題を複合的に解決するモデル事業を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の周知方法 ・奈良県、天理市、天理教、天理大学と連携 ・地元NGO・NPO間の交流・協働 ・予算の裏付け
②課題	里山の荒廃、少子高齢化、青少年育成の場や機会の減少、競技場の維持管理費、街路樹のメンテナンスなど	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	天理市は、東西日本の幹線道路「名阪国道」、最古の道「山の辺の道」「里山」に恵まれ、地域の問題解決のモデル的なケースになり得る。	
④地域資源	里山、ホタル、街路樹、天理大学、ラグビー、山の辺の道、史跡、名阪国道、新クリーンセンター（建設中）、奈良県 なら歴史文化村（建設中）など	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	ホタル、街路樹、山の辺の道を利用した集客産業、バイオマス発電所、イチョウのマネ板など、落葉堆肥利用、環境教育と生き物ブランド米、マキボイラー・ストーブとマキ、大学生が主導するエコーツーリズムなど	
⑥担い手（Who）	地元NPO・NGO、天理大学、企業（バイオマス発電、マキボイラー、旅行会社）天理市観光課、農林課、教育委員会など	
⑦事業で生じる循環	イチョウ並木が町の品格を上げ、人と自然のバランスの象徴であるホタルや里山、大学生などが街に活気をもたらす。さらに、他のプロジェクトとの相乗効果で、経済的なメリットが期待できる。	
⑧事業で生じる成果	将来的には、⑦で挙げた循環と発電型の新クリーンセンターの稼働により、エネルギーの地産地消、人材の地産地消、相互扶助の地産地消が期待できる。さらに、モデルケースとして成果を発信していきたい。	

事業名称2：天理市における地域共生再生可能エネルギーの導入促進

あらすじ

天理市は2021年3月にゼロカーボンシティを宣言したが、市内の再生可能エネルギー普及率は数%である。カーボンニュートラルを目指し、公共施設をはじめ、大学、民間施設、住宅に太陽光発電を普及することや、市内面積の20%に上る農地、耕作放棄地に営農型ソーラー導入、市内面積の38%の森林保全を兼ねたバイオマス利用を進めて市内の再生可能エネルギーの発電で市内消費電力を賄うことを目指す。また、再生可能エネルギー電力を供給する地域新電力会社を創設し、エネルギーの地産地消と、余剰電力はふるさと納税制度を活用し、市外に供給することで地域経済の向上を目指す

ストーリー

学校、公民館等、50か所ある公共避難所にレジリエンス太陽光発電を導入することからはじめ、その他公共施設にも導入、大学、民間建物の屋根にP P A手法で設置する。天理大学などの学校キャンパスをカーボンニュートラルモデル地区として具体化する。耕作放棄地、農地に地元農家、移住希望者と共同で営農型ソーラー設置と農業経営を実現できるスキームを構築し、実現化。そのために他地域の事例を参考に種々の栽培作物生産のモデル農地を試行する。天理市に多くみられる里山の保全、活用と伐採された間伐材によるバイオマス利用の普及を図るため、親里競技場周辺や白川ダム周辺をSDGs森づくりと連携し小型熱電併給型ガス化発電システムのモデル事業を実現する。これらの再エネ発電電力を地域に供給、販売する地域新電力事業を地域資本、行政、既存新電力会社と連携し実現する。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	防災対応太陽光発電、営農型ソーラー、バイオマス利用など地域共生再生可能エネルギーの普及と地域新電力事業化	・天理市ゼロカーボンに向けて、再エネ最大限導入の計画的・段階的戦略策定 ・再エネ普及につながるモデルシステム、モデル地区の実現 ・地域共生再エネ導入による経済効果スキーム ・天理で活動できる地域共生再エネの専門人材確保
②課題	・屋根に太陽光パネルが設置できる既存建物探索 ・自治体が屋根貸しできる条件整備 ・農業事業者に対する営農型ソーラーの周知、理解 ・耕作放棄地の活用できる経済スキーム、新しい農業事業者の発掘 ・間伐材の確保 ・天理に最適なバイオマス発電システムの構築 ・地域新電力会社の事業スキーム構築 ・地元に着定できる再エネ専門人材育成	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	天理市ゼロカーボン実現のため、地域共生再エネで市内電力需要のRE100と地域経済向上	
④地域資源	・学校、公共施設、宗教施設、民間施設等、太陽光パネル設置可能な低層建物が多い。 ・耕作放棄地、農地が天理市総面積の20%ある。 ・天理市総面積の38%が森林面積で里山が多い。 天理大学等、再エネ推進ポテンシャルが期待できる若者がいる	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	・既存建物の屋根に太陽光発電 P P A 事業者の活用 ・農業事業者と営農型ソーラー事業者のタイアップ ・熱電併給小型バイオマスガス化発電システムのモデル化 ・地域新電力会社創設、事業運営 ・ふるさと納税 再エネ返礼品メニュー化	
⑥担い手 (Who)	・天理市役所、環境連絡協議会、天理大学 ・ステークホルダーに入っている P P A 事業者、コンサルティング会社、金融機関	
⑦事業で生じる循環	天理市内で再エネ普及⇒ゼロカーボン化⇒地域経済向上	
⑧事業で生じる成果	天理市内で再エネ普及によるゼロカーボンに向けての推進と地産地消エネルギー活用による地域経済向上	

事業名称3：まちづくり-SDGsで天理を再ブランディング

あらすじ

天理市の強みは、宗教都市ならではのネットワークと利他精神である。また、特色ある教育機関が多数存在していて、若者が多いことも強みである。しかし、反面、宗教都市ならではの外部からのアクセスしづらさが弱みとなっている。また、他地域と同様に、少子高齢化や山間地域の過疎化、商店街の衰退を課題として抱えている。以上の、強みを活かして、課題を克服していくために本事業を行うのである。

ストーリー

天理市は、人の気持ちが温かく、自然に恵まれて景観がよく、ホスピタリティにあふれるクリーンな環境で人を育む力が高い。しかし、近年では、商店街の衰退と若者の転出超過が続き、まちの賑わいが減っている。本事業では、SDGsの17の目標に準拠して、まちのあちこちで芽生えているソーシャルビジネスを繋ぎ、雇用を創出するとともに、子ども・若者・大人・高齢者など多世代の交流を通じて、学びや成長があり、幸せを感じられるような場所にする。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	<p>キーワードは「幸福感」である。人が生涯にわたり幸せに生活するには、経済的な裕福だけではなく、人のつながり、仕事のやりがい、健康、地域社会などが必要である。これらを創出するために、大学生を中心にして、天理市が学びのフィールドとなり、若者が愛着をもてる場所を目指す。また、精神的に辛くなりがちな現代社会で、天理にくることで、自然や動物とのふれあいを通じて、セラピー効果が実感できる地にしたい。</p>	<p>・大学生は4年で一巡して卒業していくことから、起業家精神（アントレプレナーシップ）を持つ若者を短期間で育てられるかが課題である。幼少期から起業家精神（アントレプレナーシップ）を育てる起業家教育の実施と、起業家（ソーシャル・アントレプレナー）を育てるインキュベーターのような場をつくることができないか。</p>
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の市外流出（幼・小・中・高・大学までの若者世代人口は県内でも突出しているが、大学を卒業すると就職のために市外へ流出して、流出超過が起こっている） ・若者の流出は雇用先がないことが原因であり、市内や近隣地域の雇用創出が命題となる ・まちのメインストリートである商店街が衰退して、賑わいが減っている 	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	<p>「住み続けられるまち」を目指すために必要なものは何かと考えたとき、雇用の創出とにぎわい、利便性、住みやすさ（教育環境を含む）等があげられた。まずは、まちに賑わいを取り戻すことで、「楽しさ」が演出できれば、天理に住み続ける若者が増える。また、天理を訪れ、天理を知り、新たな魅力を伝えることで再ブランディングが可能になるからである。</p>	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・人の温かさ、人情、つながりなどの人的ネットワーク ・困った人に手を差し伸べて、支え合うような市民の互酬性 ・天理に愛着を持っている若者たち（幼少期より天理になじみ、高校から大学までの7年間を天理で過ごす若者たちも多く、日本全国や世界中の若者が天理に愛着を持っているという宗教都市ならではの事情） ・日本全国、世界中に広がる天理教のネットワーク ・歴史や文化（石上神宮・天理教教会・山辺の道・古墳群・寺社・スポーツ等） 	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	<ul style="list-style-type: none"> ①地域と大学の連携による事業（休耕田を利用したひまわり畑、菜の花畑など観光資源の創出） ②教育旅行を想定した、大学生企画のツアーと民泊 ③「大学生が商店街のためにできることプロジェクト」による商店街の応援 ④環境人材をつくるための資格制度 ⑤お手伝いネットワークのプラットフォーム（新しい産業を創出するために、手伝って欲しい人と少しくらいなら手伝える人をつなげるネットワーク。クラウドファンディングの労働力版） <p>①②③④を通じて、天理市を若者の学びのフィールドにすることで若者の成長を促す。⑤によって新規事業を創出しやすくする。</p>	
⑥担い手（Who）	<ul style="list-style-type: none"> ・天理市で起業したい若者（ステークホルダーの中では、ア라운드・イノベーションのようなソーシャルインベーターや大学生） ・資格制度によって環境問題やSDGsに理解をすすめた若者や市民 	<p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p>
⑦事業で生じる循環	<p>天理市を学びのフィールドにすることで人材が育ち、ソーシャルビジネスの起業を促進して、雇用が創出される。また、賑わいを取り戻せば、交流人口が増えて、移住・定住者が増えることが予想されるので、天理市に経済効果をもたらす。</p>	<p>行政組織（奈良県、天理市）・地域住民（自治会）・天理大学・天理高校・天理中学校、市内小中学校などの教育機関</p>
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・天理のまちが賑やかになる ・現代社会では失われつつあるコミュニティや人のつながりが強化される ・天理で育まれた環境人材が日本全国や世界で活躍する 	